



茨木市立福井小学校

令和元年（2019年）11月1日

福井だより

福井から未来へ！

校長 吉田 明弘

道徳の学習について紹介します。

道徳の教科化に向けて、福井小学校では、定期的（月に1回）に会議を行い、授業内容や評価の方法について研究を進めています。

今回は、「ぼくの名前をよんで」という教材の実践を紹介します。



【ぼくの名前をよんで 概要】

聴覚障害がある両親のもとで育った太郎。クラス内でのトラブルの際に突然「おまえ、父ちゃん母ちゃんから、一度も名前をよばれたことがないだろう。これからは、ずっとよばれないぞ。」と言われ激しく動揺します。太郎のおもい、父のおもい、母のおもい・・・、家族愛を主題にした教材です。

この教材は、6年生の教科書でとりあげられていますが、道徳推進教師（校内における道徳教育推進のためのリーダー）が4年生と5年生で授業を行いました。（学年ごとに授業の進め方は異なります。）

☆児童の反応

『太郎は、父親の手話や涙を見て、どう感じたと思いますか？』

【4年】

・自分だけのくやしい気持ちじゃなくて、自分のお父さん、お母さんも同じ気持ちだったんだ。そんなことも知らないのに、自分の思っていることだけを言ってしまうってごめんなさい。ぼくもお父さんやお母さんみたいになりたい。

・名前をよんでももらえないぼくよりも、お父さんお母さんのほうがもっとつらかったんだ。

・ありがとうお父さん。ぼくはぼくとして最高の生き方をするよ。ぼくのお父さんでありがとう。

・お父さんお母さんの思っている事はぼくといっしょだったんだ。声が聞こえなくてもつながってるね。

【5年】

・父母は耳がきこえなくて私の泣き声がきこえない。だけど、父さんのなみだを見たら、いっしょうけんめい生きて、いっしょうけんめいぼくのこと育ててくれたのかと思う。うれしい。

・父さんもぼくの名前をよびたかったのか。

・さっき言ってしまったことに「ごめんなさい」と言いたい。

・本当は母さんも父さんも耳がきこえないこと、そして話ができないことが、さいしょはかなしかっただろうし、こんなにもぼくにたいして思ってくれていることを心から感じ、父さんと母さんの気持ちにこたえてあげたい。

『今日の学習から、あなたはこれからどんなことを大切にして生きていきたいですか。』

【4年】

・いろんな人の命やいろんな人の気持ちを大切にして生きていきたいです。

・何かができないから、体験していないからといって、その人の幸せがなくなるわけではないことが分かった。太郎のお父さんみたいに、何かができなくても、太郎みたいに何かを体験したことがなくても、自分は自分としての考えをもって、でも他の人の考えを大切にしながら生きていきたい。

【5年】

・生んでくれた人や育ててくれた人に感しゃして生きていきたい。

・いつもはあたりまえだと思っているけど、お母さんやお父さんにかんしゃしていききたい。

・いろいろな人のおもいを大切に生きていきたい。

・家族や命を大切にして生きていきたい。

・人のできることや思っていることをきめつけずに生きていきたい。